

【資料1】 占用事業者公募を目指したサウンディング調査について



1 前提となる考え方

平成27年度よりミズベリング豊田の取組などを通して、民間事業者による社会実験やワークショップにより、重要と思われる価値の把握、新たな利活用に向けた取組などを行い、河川空間における民間事業者による営利活動が可能となる「都市・地域再生等利用区域」の指定を受け、**賑わい創出に寄与する飲食物の販売行為**などが行えるようになった。**過年度においては、公設民営及び維持管理も含めた形で占用事業者公募を検討していたが、昨今の状況から選択肢を広げて「民設民営」による公募も検討することとなった。**

そこで、豊田市の白浜・千石公園（高橋～久澄橋区間）において、これまで通り、川づかいの多様な関係者との良好な関係を築きながら、アクティビティの幅を広げ、矢作川の魅力を発信するため、以下の取組を実施した。

2 令和3年度の取組み

占用事業者公募を目指したトライアル・サウンディング実施

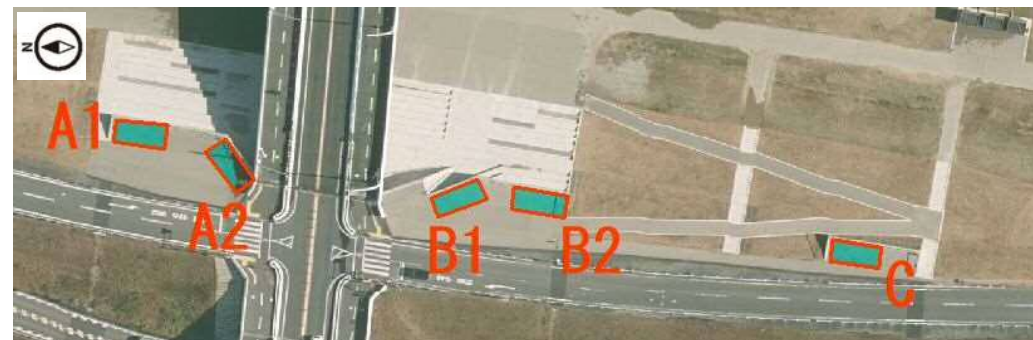
これまでのような、「公設民営での拠点施設づくり+コアエリアの維持管理業務」といった大掛かりな仕組みだけではなく、**維持管理業務を外し、小さく事業をスタートできるような「民設民営を基本とした占用事業者公募」の可能性を探るトライアル・サウンディング※**を行った。

公園にキッチンカーを出店したいという要望が以前からあったため、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いた期間を狙い、**ホームページで募集をかけて試行的に橋詰広場への出店を実施した。イベント時ではなく、個別のキッチンカーのみの出店は、都市公園で初めての試み**である。

※行政が活用を検討している敷地に対し、いきなりサウンディングや事業者募集をするのではなく民間事業者が検討中の事業を、まずはトライアルで（試しに）実施してもらう期間を設ける制度

（1）移動販売車等の出店概要

- ア 募集内容 移動販売車又は露店による飲食物や商品の販売
- イ 実施期間 令和3年5月1日から令和3年5月31日まで※
※緊急事態宣言発出のため5月12日から河川敷公園駐車場閉鎖
- ウ 実施場所 白浜公園（橋詰広場）
- エ 使用料 1区画1日あたり435円



出店区画

（2）出店結果

人気の区画（B区画の土日祝）は、初日に申し込みが集まった。C区画は申し込みが1件もなかった。5者により31区画出店申込（全155区画）
売上は、ほぼ出店者の目標額には至らなかった。また、平日はほとんど売り上げがない状況であった。

（3）考察

コロナ禍という特殊な状況ではあったが、出店者・利用者から様々な意見があり、賑わい創出実現に必要な対応策が確認できた。

出店者意見

対応策

認知度が低い

●白浜公園での出店の認知度を上げる広報の徹底

顧客が近寄ってくれない

●賑わい創出を実現する会場レイアウトの改善

あまり売れない

●利用者の需要と供給を一致させるための分析・調整



（4）今後の方針

夏に開催したあいあいマルシェは賑わいの創出に成功した。主催者の意向により、来年度以降も継続的に実施する予定である。（資料2参照）多くの実績・ノウハウを持つ主催者が、広報・会場レイアウト・出店者調整を実施したことが、成功の要因である。

感染状況が落ち着いた期間を狙い、橋詰広場だけではなく河川敷も含めた出店募集を計画し、上記の対応策が実践できるプレーヤーを更に発掘する。

- ・利活用は、スモールスタートで様々なプレーヤーに使ってもらい裾野を広げる
- ・様々なプレーヤーの中から、川づかいの多様な関係者に認められ、持続可能な管理運営ができるプレーヤーを見つけ、維持管理・利用調整を含む公募を検討

コーディネートブック(仮称)の活用

昨年、事前意見徴取でいただいたご意見を参考として、内容に盛り込んだ。まずは、事務局で活用し、適宜改善を行っていく。将来的には、利用調整を含む公募により選定した民間事業者が活用できる内容へと発展させることを目指す。



【資料2】令和3年度矢作川水辺プロジェクトイベント実績



キッチンカー出店（白浜公園 [橋詰広場]）【官】

5月1日～31日（緊急事態宣言発出に伴い5/12より公園駐車場閉鎖）

民設民営による公募を目指したトライアル・サウンディングの実施。

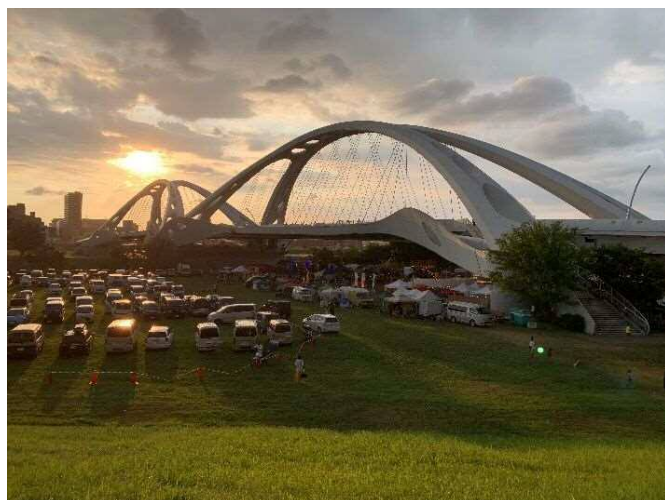
白浜公園での飲食物販売ニーズを探るべく、実験的にキッチンカーの募集・出店を行った。トライアル・サウンディングを通して、公園での飲食物販売のニーズの高さを認識するとともに、今後公募を進めていくための課題の抽出ができた。



橋ノ下盆踊りピック2021（千石公園）【民】

7月23日・24日

若者の文化振興を軸に、矢作川流域で活動する様々な地元団体などとの交流、豊田の民謡拳母小唄や拳母音頭の保存と再生、先祖供養の盆踊りという古来からある輪踊り様式の保存と再創造、そして矢作川への感謝を込めて開催された音楽イベント。



新型コロナウイルス感染状況により中止になったイベント

5月29日・30日 矢作川自転車ツアー（白浜公園）

6月5日・6日 遊牧民祭NORAD2021（千石公園・御立公園）

9月4日・5日 あいあいマルシェ（白浜公園）・矢作川感謝祭（千石公園）

あいあいマルシェ（白浜公園）【民】

7月31日・8月7日

イベントなどに出演していたキッチンカー・ハンドメイド作家や音楽家たちが、新型コロナウイルス感染症により活動場所がなくなっている現状を救済するために開催されたマルシェ。

トヨタ自動車株式会社の協力のもと、S A K U R Aプロジェクトの取組として給電ボランティアが電動車により照明器具やキッチンカーに給電活動を行う実証も同時に行った。



とよた元気まつり（白浜公園）【民】

12月4日

日本一わくわくする楽しいふるさと意識の高揚を目指し、市民にとって「WE LOVE とよた」が体感できる場所として、ステージではダンスパフォーマンスや地元小学校による発表を実施し、地元のキッチンカーにより飲食物販売が行われた。

また、新型コロナウイルス感染症の終息と豊田市の復興の願いを込めて、豊田市初となるスカイランタンが夜空に舞った。



【資料3】千石公園の利活用について



1. 千石公園キャンプ事業公募の概要について

(1) 事業目的

「矢作川かわまちづくり計画」に基づき、民間事業者の斬新なアイデアと優れた経営ノウハウにより、千石公園の魅力あふれる新たな賑わいを創出し、公園の機能増進を図ることを目的としています。

(2) 事業内容

利用者の一定の需要※と事業者の参入見込みが確認できたため、千石公園の一部区域を活用してデイキャンプ及び宿泊を伴うキャンプを行う事業者を募集します。キャンプ事業のほか、自主事業も提案対象としています。（※令和2年10月・11月 アンケート結果より）

(3) 提案対象区域図



(4) 公募・管理許可スケジュール

	内容	日付（予定）
公 募	募集要項配布	4月 1日（金）～ 5月 2日（月）
	提案書受付	5月16日（月）～ 5月31日（火）
	審査	6月 1日（水）～ 6月10日（金）
	最優秀提案者等通知	6月13日（月）
管 理 許 可	管理許可期間 開始	7月 1日（月）
	キャンプ事業（1回目）	9月の事業者実施提案日
	キャンプ事業（2回目）	11月の事業者実施提案日
	管理許可期間 終了	3月31日（金）

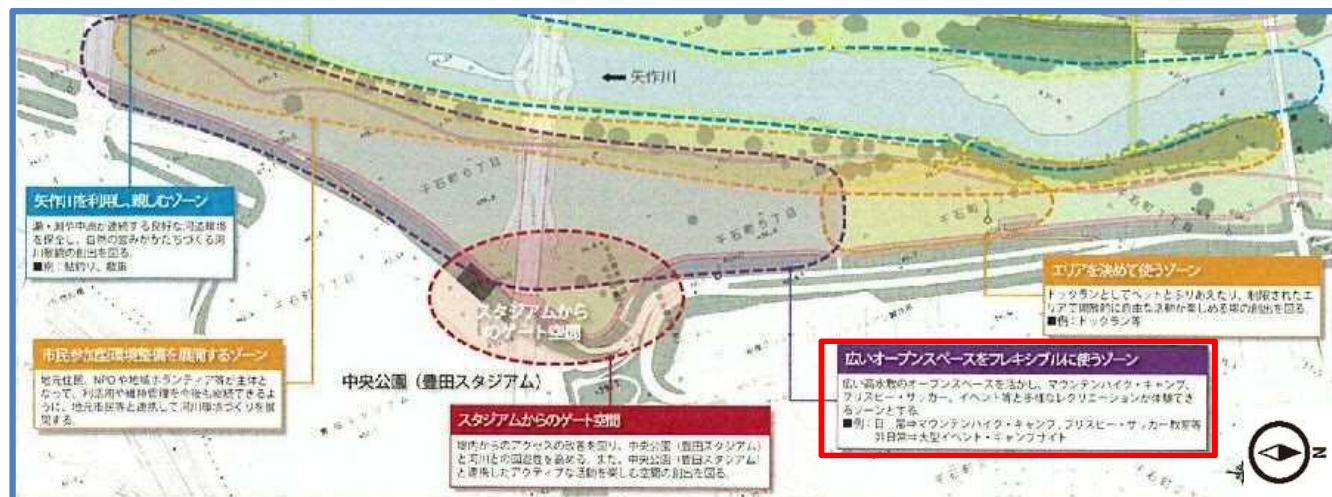
(5) 今後の方針

<令和4年度>

- ・キャンプ事業中に民間事業者による周辺のパトロールも実施
→ **賑わいの創出 + 公園の不正利用の防止**

<令和5年度>

- ・管理許可期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年間）
- ・**令和4年度の結果を受けて、更なる活用を目指していきます。**



出典：豊公園発第1919号 平成29年12月26日 国土交通省水管理・国土保全局長宛 「かわまちづくり」計画の登録について（申請） より抜粋

2. 豊田スタジアムイベント開催時における千石公園の利活用について

【背景】

豊田スタジアムでの大規模イベント開催時において、公園駐車場を閉鎖せざるを得ない状況であった。

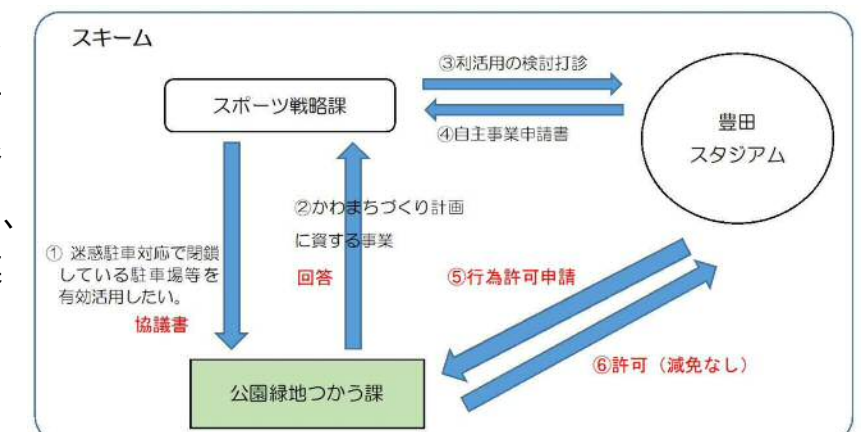
そこで千石公園をイベント時においても有効活用するため、既存駐車場※を予約制有料駐車場として利活用します。

※ 最大131台



【スキーム】

スポーツ戦略課からの有効活用についての協議を受け、公園緑地つかう課でかわまちづくりに資する事業において利活用を認めました。豊田スタジアムからスポーツ戦略課へ自主事業の申請があり、千石公園駐車場を有料駐車場として利用する事業を開始します。豊田スタジアムは公園緑地つかう課に対し、駐車場利用の行為許可申請をし、使用料を納付の上、貸出事業を行います。



【資料4-1】かわまち計画の変更（水辺プロジェクト全体エリアについて）

第11回矢作川利用調整協議会【資料4】



水辺プロジェクトは、これまで「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」のめざす矢作川の姿（将来像）に向け、平成31年ラグビーW杯を一つの契機としてコアエリアの整備を先行して進めてきました。全体エリアについては、整備コンセプトを第2回矢作川利用調整協議会で示しており、現在今後の全体エリアへの取組み拡大に向けて、持続可能な利活用の仕組みづくりの検討や事業者サウンディングの実施を進めています。

豊田市矢作川河川環境活性化プラン

豊田市では、矢作川の豊かな自然を保全・創出し、良好な河川環境へと導く整備方針として「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」を策定しました。矢作川を取り巻く自然環境や社会環境の変化に対応し、自然豊かな矢作川を次世代に引き継ぐための「めざす矢作川の姿」を示しています。「めざす矢作川の姿」の具現化を目指し、河川管理者である国土交通省や愛知県と協力して、市民の共働による川づくりに取り組んでいます。

河畔散策路・サイクリングロード 人と自然が共生する河畔整備など （イメージ）



散策路&サイクリング



在来種の草原



緩やかな水際



【整備方針】

久澄橋～籠川合流部
○清流矢作川にふさわしい自然と景観を再生します
○多くの市民が利用する魅力ある河川空間を創出します

秋葉緑地～久澄橋
○水際の植生を再生し、自然の多様性を高めます
○上流の公園との連続性を高め、自然と共生した人の利用を促します

河川のオープン化（イメージ）



階段護岸とテラス



桁下の水辺カフェ



人が楽しむ河畔

【資料4－2】かわまち計画の変更（ラリーイベントを見据えたエリア拡張について）

第11回矢作川利用調整協議会【資料4】



本市が推進するラリーを活かしたまちづくりの一環であるラリーイベント（ラリーチャレンジ：TGRが開催するシリーズ戦）の開催にあたり、矢作川河川敷をステージとする案が検討されています。継続的なラリーイベントの開催をラグビーW杯同様に一つの大きなアウトプットとして、これを契機とした「かわまち制度」活用による更なる賑わいある河川空間の創出を図ります。その実施にあたっては、ラリーイベント開催が想定される右岸エリアを今回既存計画のコアエリアに加え、全体エリア推進に向けた段階的展開として整備を進めていきます。

